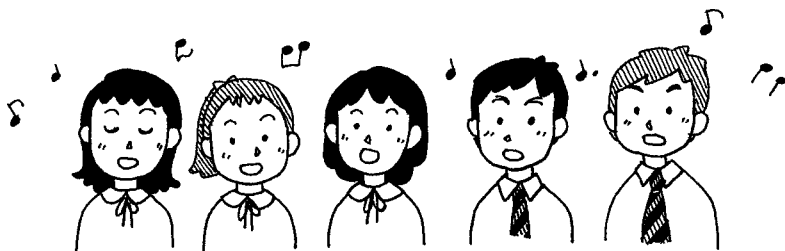


キーワード17 所属感

1年E組は合唱コンクールに向けて、クラスが一丸となって練習してきた。最初はやる気のなかった男子も、女子の頑張っている姿を見て、まじめに練習に取り組むようになった。特にLさんはソプラノのパートリーダーとして、合唱の練習を引っ張ってきた。

合唱コンクールの当日の朝練習のとき、突然Lさんが歌いながら泣き出してしまった。担任のM教諭がLさんを廊下に連れて行き、なぜ泣いているのか話を聞いた。Lさんが言うには、「のどの調子が悪くて、思うように声が出ない。今日が本番なのに、悔やしくて涙が出てきた。」というのであった。M教諭は、Lさんにクラスの仲間が歌っている姿を見せて、「どうだい。素晴らしい合唱だろ。先生は君たちの合唱が大好きだ。これだけ素晴らしい合唱ができたのは、Lさんが今まで頑張ってきてくれたおかげだよ。ありがとうね。のどの調子が悪くたって、精一杯歌えばいいよ。君にはこのクラスの皆がついているのだから。」と話した。

E組は、本番でも素晴らしい歌を披露した。Lさんの合唱コンクールの感想文の最後には、「E組最高。私はE組の一員でよかった。」と書かれてあった。



人はみな、自分が属する集団の中で理解され、受け入れられたいという気持ちをもっています。この気持ちを満たすことが、更に自分の能力を高めていこうという気持ちにつながります。子供たちに学級の中での所属感をもたせることは、その成長にとって大切なことです。

所属感がなくなると

子供が学級に対する所属感がなくなると、不適切な行動をとって所属感を満たそうとしたり、他の場所に所属感を求めるようになります。

不適切な行動

- ① 注目・関心を得ようと目立つ行動をとる。
- ② ささいなことでけんかをしかけ、そこで勝ちあがろうとする。
- ③ いじめなど、自分より弱いと思う子供を攻撃する。
- ④ 自分を否定して、孤立しようとする。

所属感を高めるために

- ① 担任自らが、一人一人の子供たちのよさを認めるとともに、学級全体にそのことを伝える機会をつくる。
- ② 係活動など、学級での子供たちの役割を明確にする。役割を果たしたときには、担任から「よくできたね。これからは任せたよ。」とほめたり、「ありがとう。助かったよ。」と感謝したりする。
- ③ 行事などを通して、学級の仲間と感動体験や喜びを共有する場をつくる。